

英語教育講座 高木 浩志 特任講師



小学校外国語活動・外国語科における 指導方法と指導者の資質向上に関する研究

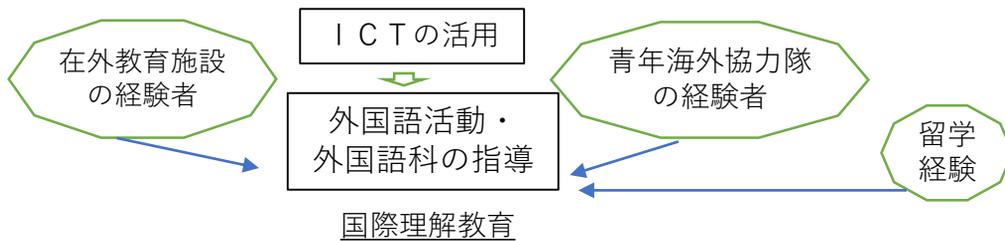


キーワード 小中連携/ICT/国際理解教育/海外での体験/

どのような研究をなぜ行っているか

2020年度から新しい小学校学習指導要領が始まり、外国語活動・外国語科での指導の成果と課題が明らかになってきている。子供たちが英語を聞き取ったり、積極的に話そうとすることには慣れてきているが、読んだり書くことについては課題があり、中学校での指導に影響が出ているという。何よりも、全国学力学習状況調査から、中学校に入学時には、英語が嫌いという子どもが増えているという指摘がある。このような子どもたちに指導するためには、どのような指導方法を考えたらよだろうか。小・中学校でギガスクール構想の進展の中、2024年度には小中の英語科からデジタル教科書が子どもたちに配布されることになるという。ICTを活用した上での指導方法も考えていかなければならない。

また、教師はどのような資質が必要であろうか。現在のような、英語を指導した経験がなく中学校英語科免許もない教師、中学校で英語を指導した経験のある教師、民間の児童英語を指導した経験のある教師などの混同した状況から外国語活動・外国語科について学んで小学校免許を取得した教師もやっと現場に出ている。これからの資質向上に向けて、私が着目しているのは、海外体験がある教師である。留学経験がある教師はもちろんのこと、在外教育施設（日本人学校、補習授業校）やJICAで海外青年協力隊の経験のある教師が自分たちの経験を活かして、外国語活動・外国語科を指導することである。海外で経験したことをもとにして外国語活動・外国語科の指導を積極的に展開してもらいたいと考えている。



研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

- 学生への指導経験を重ねることで、小学校外国語活動・外国語科の指導法の研究を進める。
- ICTの活用をデジタル教科書を利用した授業経験等を通して学生と共に進める。
- 国際理解教育を外国語活動・外国語科の指導を通して、学生に経験させる。
- 在外教育施設や海外青年協力隊の経験者からの体験談を通して、外国語活動・外国語科の指導の方法への参考として、学ばせる。
- 小・中学校、他大学での指導を通して、上記に挙げた内容の経験からの実証を進める。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 兵庫県宝塚市において、外国語活動・外国語科担当指導者への研修・研究活動
- 教科書会社における指導書、資料、教科書の作成助言
- 教材会社において外国語活動・外国語科のテスト作成指導
- 言語教育振興財団助成での研究活動
- 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会での活動